

道徳通信

～「むこう岸には」～

愛西市立八開中学校

道徳通信

令和3年12月17日

📌「他国の人と理解し合うために大切なのは、どんな心だろう。」～道徳「むこう岸には」を通して考えました～

川のむこう岸には、自分たちと違う人が住んでいるので渡ってはいけないと言われていた「私」。ある日、むこう岸から手を振っている男の子に気づき、手を振り返します。あくる日、「私」はその男の子が綱を引く舟に乗り、むこう岸へ渡ります。男の子の家族は、髪の毛は黄色くもしゃもしゃで、にぎやかな色の服を着ています。でも、おじさんはお父さんと同じ漁師で、小さい子は弟と同じように川の石で遊んでいます。「私」は「私たちは違っている。だけど、とってもよく似ている。」ことに気づくのです。

そして、大人になったら「この川に橋をかけるんだ。」という夢をもちます。夢を語る「私たち」にどんな思いがあるのかを話し合い、学びのテーマについて考えました。

●● ●●くん

やっぱり僕も虫は食べられない。他の人ができていることを「自分がする」ことが理解することではなく、「それはだめだ」とか「違う」とか言わないことだと思った。

●● ●●くん

橋をかけて交流しあえば、偏見というものは無くなると思った。いつまでも相手と話し合わずに、悪い人たちとだけ思っていたら、何も変わらないし、偏見は無くならないと思った。

●● ●●さん

私は今日の勉強で互いのすれ違いでこんなに仲が悪くなるんだなと思った。やっぱり偏見は良くないと思いました。偏見をなくすにはお互いがお互いのことに関心を持ち、分かり合うことが大切だと思った。

●● ●●さん

自分が他国の文化とかを肯定できないとしても、否定して相手と距離をとったり差別したりすることは違うと思った。だから、少しずつでも分かり合えたらいいなと思う。

●● ●●さん

他国の人と理解し合うために大切なのは、アイデンティティを認め合う心だと思う。個性を認め合えば偏見なんてなくなるし、視野が広がっていろいろな人と繋がりが増えると思う。そうすれば、新しい発見ができると思うし、心の距離も縮まると思う。自分から見ればこの人って変わってるなあとかと思うけど、相手から見ても自分は変わっているかもしれないので、自分が基準と思って物事を考えてはいけないと思った。

●● ●●くん

他国の人と理解し合うためには一つのことにとらわれず、視野を広げることが大切だと思う。一つのことにとらわれていると、周りが見えなくなり相手の良い所も見つからない。なので今、地球にいる全員が視野を広げられれば差別もなくなると思う。

●● ●●さん

最近は差別用語・平等という言葉が多いけれどみんながみんな、差別を無くしたり平等に接することができているのかといえばできてなさそう。ニュースや新聞に取り上げられているから。だからこそ、固定観念をなくし、差別とは何かなど少しずつ理解して意識して接して行けたらいいと思う。

●● ●●くん

自分たちにとっては非常識なことも相手にとっては常識ということも当然あり得る。だから、実際に目にした時に声に出したり、否定したりするのではなく、そういう文化があるんだという気持ちで受け止めることが大事だと思った。

●● ●●くん

たとえ自分と相手が違うところばかりでも、自分たちのことを伝え仲良くしたいと思う。

何千回でも、何万回でも

こっちからあっちへ、

あっちからこっちへ

会いに行けるだろう。

ニコラス、グラシエラ